

第3回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：平成27年11月6日（金）午前10時30分から午後4時30分まで

開催場所：釧路市民活動センター わっと

出席人数：5名（欠席7名）

<視察研修スケジュール>

- 1 釧路市民活動センター 施設見学
（対応：成ヶ澤事務局長）
- 2 釧路市民活動センター設置までの経緯及び法人の理念について
（対応：小林理事長、蝦名副理事長、成ヶ澤事務局長）
- 3 活動内容と課題
- 4 質疑応答

1 釧路市民センター 施設見学

2 釧路市民活動センター設置までの経緯及び法人の理念について

・市民と行政が互いに対等な立場で、ともに考え、協力し、信頼関係とパートナーシップに基づく市民協働のまちづくりを推進するため、平成16年8月にオープン。平成17年に平成20年度以降、センターの指定管理を担い、市民活動の拠点として、市民活動と行政、企業との協働を軸としたまちづくり事業を展開している。

・釧路地域の市民活動に興味のある人に対し、「ひと」「まち」「こえ」をつなぎ、新たな地域文化をつくるまちづくりを行なうため、市民活動を応援し、繋ぎ、育てるための支援をすることを理念としている。

3 活動内容と課題

・大きく分け、委託事業、補助金・助成金事業、実行委員会形式事業、指定管理事業がある。また、相談業務等も行なっており、センター利用と広報・掲示依頼のほか、団体に対する助成金情報の発信もしている。ボランティアに関しては、一見ボランティアというのを募集し、例えばグループホームさんから頼まれたのでお願いします、といったような要望に応えるため、色々やっている状況。

・若い世代は、ボランティア＝ゴミ拾い、無償といったイメージがあるため、わっとではここ数年、有償ボランティアというものを推奨している。また、社会の方々と繋がりを持てる活動にボランティアとして参加させることで、自分から視野を広げる効果も期待できることから、わっとがその中心として絡んでいきたいとと考えている。

・今後の課題としては、活動団体の構成員が高齢化してきていることから、若い世代との連携について考えていかなければならない。現在は釧路公立大の学生や高校生ボランティアと連携し、イベントなどに関わってもらっているが、現状としてまちづくりに若い世代が少ないなかで、ど

のように巻き込んでいくかが課題となっている。

・行政からの指定管理ということで、ある程度の安定性はあるが、次にまた指定管理が取れるとも限らない。このため、職員を雇ってもその期間での雇用にしかならないといった不安定性もある。また、相談業務に関わって、色々な活動団体を育て、繋いでいくといったことには非常に高いスキルが要求されるが、そういった職員は安定した職場でなければ育たないと考えており、そういった意味では、今の状況では良い人材は中々集められないとも思っている。

・わっとは正職員が6名、夜間アルバイトが2名の計8名で動いているが、年間の指定管理費1,500万円のうち、1,300万円が人件費となっている。勤務形態も9:30出勤の22:00閉館で、交代制となっているが、ぎりぎりの状況である。

4 質疑応答

委員

こちらの団体に対して、市民団体や企業からの金銭的なものも含めた支援というのはあるのでしょうか。

小林理事長

事業を行なうごとに補助金や助成金を受けているので、直接的な支援というものはありません。現在、企業と提携して行なっているポイントカード事業では、月に1万円程度、運営資金というかたちで、わっとに参加している会員や団体に対し補助金をもらっているくらいです。

委員

別海町にも色々な団体があるが、話しを聞いていると会員がどんどん少なくなっている。こちらでもそのような相談はありますか。

小林理事長

あります。自然減もありますが、高齢化が一番大きな問題ですね。また、後継者を育てられないということもあります。

成ヶ澤事務局長

長く続けるほど年齢層が高くなり、若い人が入ってこないという部分もあります。例えば、何か大きなイベントに1つの団体では参加が難しいとき、幾つか集まればそれができるといようなかたちで、わっとがその核として動いています。

委員

わっとができてからNPO法人の数が増えたとか、あるいは最初から相当数の団体があったので、わっととして活動する必要があったのでしょうか。

小林理事長

わっとができて11年目になりますが、それまでのNPO法人の数からみるともちろん増えていきます。しかし、それはわっとが支援をしたからだというと、必ずしもそうではなく、直接的にわっとを通して法人化したところもあるというような状況です。

蝦名副理事長

今、隣町から相談を受けているのですが、施設利用者がほとんどいない状況だそうです。全管内に発信すればいいのではと提案しても、市の施設なので市民しか呼びかけられないというんですね。やはりどの地域に住んでいても気軽に利用できるようにすることが大事だと考えています。わっとでは、管外の団体が登録したり、道外企業が利用したりと、どなたでも利用できるものとなっています。

委員

学生さんと作成したこのロードマップも素晴らしいですね。ちょっとこのお店に行ってみようかというふうな気持ちにさせられると、まちも活性化するのではないかと思います。

委員

今、在籍している協議会のほうで、別海市街の地図をつくろうじゃないかということで動いています。もっと観光客だけじゃなく町民が利用しやすい、細かいところもわかるようなものを、ワークショップをしながらいう話をしていますが、まだまだそのような段階です。

蝦名副理事長

別海町の飲食店さんから、冬場は全く観光客が来なくなると相談を受けます。荒天により営業できなくなるなどもありますが、そのなかで、やはり夏場は観光客メインで考えすぎてしまい、対町民が疎かになるということも聞いているので、町民を巻き込んでどういうサービスをしたら必要かなど、話し合いの場を設けたほうが良いのではと思っています。

委員

以前ボランティアを頼まれたとき、食事券 1 枚で朝から晩まで働かそうといった動きがあって、言われればやるけれど、あまりにもそれはひどいのでは？と言ったことがありました。ボランティアと言えば動いてくれるという人がたくさんいると思うので、先ほどの「ボランティア＝無償の時代ではない」という話を、すごいなと思って聞いていました。

蝦名副理事長

単に報酬を出せない、といったものもあるとは思いますが、無償だからこそ、食事をしっかり出す、交通費を支給する、人手が足りないときはアルバイト代を出すといったこともわっとではやっています。

委員

やはり、やる仕事にやりがいがあるようにしてあげなければならない。やりがいがあるような仕向け方をしなければ、これからはやっていけないのではと思いますね。

蝦名副理事長

そういうなかで、市民活動団体がなくなってしまうのかもしれませんが。市民活動を推進するわっとのような施設が 1 つあれば、かなり変わってくるのではないかと思います。そこに行けば誰かに会えるかもしれない、情報を共有・交換できるかもしれない、自分の情報を発信できるかもしれないといった部分があるので、そういう場は必要だと思います。

せっかく別海町には、「ぷらと」が中心部にありますので、もっと活用していただきたいと思います。

委員

常駐者がいないですし、スペースがあっただうぞご利用ください、というだけでは中々利用者も増えないですよ。

委員

現状として、別海町はまだこれからと感じています。協働のまちづくりをしようとか、この自治推進委員会でまとめたことを町長に提出すれば、それでまちが活性化するとか、そんなことには中々ならない。それを具現化するためにはどうすれば良いのかということ、我々は考えていかなければいけないと思っています。

小林理事長

その拠点となるべきところを、どれだけうまく作っていくのかということが課題ですね。町全体として、どのような方向性で拠点づくりをしていくのかということ、しっかり定めることが重要です。

蝦名副理事長

課単独ではなく、関連する部署を巻き込むように町民が仕向ける必要もありますね。町民発信で巻き込んでいくことで、行政は動くと思います。

5 閉 会